

「吉田松陰歴史館」の開館の目的

ここは単に古い遺物を並べた歴史館ではありません。透徹した史観を主張する全く新しいタイプの歴史館です。

その目的とする所は、日本人にとつて史上最大の政治的革新・明治維新の原動力となつた吉田松陰先生の全貌を知つて頂くにありま

す。
萩の貧しい下級武士の家に生れ、幼時より学問の道に志し、幾度かの激しい試練を経て思想上の脱皮を重ねつつ、遂に革新の道を突き進み、僅か数年三十才にして江戸にて刑死。

その短い人生が日本の歴史を変えた、といわれる先生の思想と行動力、幾多の英傑を育てた 松下村塾の教育、学問に生涯を捧げて

逝ましく変貌してゆくその激しい精神の過程を見て頂く事にあります。

戦後の吉田松陰先生の知名度は

吉田松陰先生とは、松下村塾とはの最近行われたアンケート調査によると、名前は聞いた事があるがそれ以上は全く知らないが多

も多く、良く知っているは僅か8%でした。
吉田まつかげとは如何なる人か、まつした村塾とは、ナショナル電気と関係があるのかという質問も、如何にも戦後らしく、全く無関心の方も少なくない。

吉田松陰親の推移

松陰先生に関する著書は個人では最高で、明治時代には二十冊、大正で二十五冊、昭和は戦後までに百九十冊に達しており、維新を開いた勤皇の健児、日本男子の好標本と賞讃

されておりました。

然し、時代の推移と共に、松陰像は日本の政治体制によつて変化させられてきました。

戦時中は、臣民教育の手段として忠君愛国の根源にすえられ、ファシズムのシンボルにまつり上げられたのであります。ところで、その故に、戦後の松陰先生は勤王攘夷の反動家として一時白眼視されておりました。

昭和二十五年、奈良本辰也氏が岩波新書の「吉田松陰」を出版、マスコミに一石を投じた。この一石は大きな反響を巻き起し、左右の両陣営から猛然たる批判が殺到しました。

松陰論はここに再検討、再評価の的になり関係著書が続出して、戦後から現在までに六十四種出版され、そのブームは今も静かに続いておられます。

★記念スタンプ押印欄

その独特の展示方法

その展示方法は日本では類を見ないので、有名な英国の蠅人形館「マダム・タツソー」と同様な手法をとり、等身大の蠅人形七十余体を、幕末の萩の城下のセットに配して、歴史上の重大な一瞬を再現しているのです。

誠に臨場感に溢れ、説得力も強く、歴史教育の絶好の場となっております。

その内容に対する評価と感想集

松陰研究家グループは「虚像を排し、よく実像に迫っている。透徹した史観で吉田松陰をとらえ、簡潔、平易にその一生を述べてい

る。歴史教育の場として感銘が深い。」又、「松陰先生の生涯には無数の教訓が含まれている、学問を志す者にとつて特に注目したいのは大きな勇気を与えられる事である」と評価されました。
学問と思想に、ストイックといわれるまでの姿勢で突き進んでゆく松陰先生の生涯は、若い方に瑞々しい感動と共感を得ていただける事と存じます。

これは、目で見る吉田松陰のすべて！
短かくも激しいその生涯を七十余体の等身大蠅人形にて再現！



吉田松陰歴史館

ゆかりの地・松陰神社境内

山口県萩市椿東 松陰神社境内 TEL0838-26-9116



松陰は金子重輔と共に下田港で米艦に密航を企てたが失敗、自首する



大次郎英才の誉れ高く11才で藩主の御前で武教全書の講義をする



松陰の生家、父は毛利藩の下級武士、貧しかったが学問好きの一家

明治維新——それは日本の歴史初まつて以来最大の政治改革であった。徳川三百年の幕藩体制を打倒し、封建日本から近代的統一国家への建設へ——と凄まじい闘争が初まった。尊攘から倒幕へ、王政復古へ、動乱の渦は全国に波及してゆく、その明治維新の誕生の地は毛利藩の萩、その中心人物は若い吉田松陰であった。

吉田松陰の略歴

天保元年（一八三〇）八月四日萩藩士杉百合之助常道の二男として萩の東郊護国山団子巖に生れた。名は矩方、通称は虎之助、大次郎、松次郎、寅次郎と度々改めた。号は松陰又は二十一回孟士として知られている。

数え年五歳の時藩の山鹿流兵学者であった叔父吉田大助の養子となり、翌年叔父が死んだので家督を相続した。それよりのち家学大成のため勉学にはげんだ。

二十一才、平戸、長崎に遊学、西欧文化の一端にふれ、大いに啓発される。

翌年、藩主の江戸出府に随行、当時随一の西洋学者佐久間象山の塾に学ぶ。阿片戦争の詳細を知り、西欧の東洋侵略、日本に及ぶの恐怖を痛感する。

同年、無断にて東北地方を遊歴し、脱藩の罪にて、土籍、世禄を剥奪・閉居を命ぜられる。藩公から特に十年の遊学を許されて、江戸に行き、再び、佐久間象山に学ぶ。国を救う為には、西欧の事情を知るにしかずと国法を冒して決死の密航を企てたが失敗、自首萩の野山獄になされる。

そこで松陰は世にも不思議な囚人教育が始まった。門下生各自の可能性を引き出す独特の教育であった。彼の思想の根底にあるものは、外夷に対する祖国愛であり、貧しい日本を、おかれている日本を強くしなければならぬという富国強兵策であり、時勢への開眼であった。

松陰は世界の大勢をとき、日本の行く可き道を教えようとした。学問が現実と遊離しては存在しないし、あつてはならないといた。

この教育がその子弟を奮いおこさせた。日本の改造・革新へ——明治維新へと突き進む。

学問から実践へ、その政治活動は安政の大獄への連座となり、江戸送り、小塚原で斬られた。行年僅か数えの三十才。明治の日本をつくった偉人の多くは吉田松陰の門下生、高杉晋作・久坂玄瑞・吉田稔麿・前原一誠・伊藤博文・山県有朋・野村靖等有名である。

萩の軽輩の子弟を中心に猛然な囚人教育が始まった。門下生各自の可能性を引き出す独特の教育であった。彼の思想の根底にあるものは、外夷に対する祖国愛であり、貧しい日本を、おかれている日本を強くしなければならぬという富国強兵策であり、時勢への開眼であった。

松陰は世界の大勢をとき、日本の行く可き道を教えようとした。学問が現実と遊離しては存在しないし、あつてはならないといた。

この教育がその子弟を奮いおこさせた。日本の改造・革新へ——明治維新へと突き進む。

学問から実践へ、その政治活動は安政の大獄への連座となり、江戸送り、小塚原で斬られた。行年僅か数えの三十才。明治の日本をつくった偉人の多くは吉田松陰の門下生、高杉晋作・久坂玄瑞・吉田稔麿・前原一誠・伊藤博文・山県有朋・野村靖等有名である。

明治維新——それは日本の歴史初まつて以来最大の政治改革であった。徳川三百年の幕藩体制を打倒し、封建日本から近代的統一国家への建設へ——と凄まじい闘争が初まった。尊攘から倒幕へ、王政復古へ、動乱の渦は全国に波及してゆく、その明治維新の誕生の地は毛利藩の萩、その中心人物は若い吉田松陰であった。

吉田松陰の略歴

天保元年（一八三〇）八月四日萩藩士杉百合之助常道の二男として萩の東郊護国山団子巖に生れた。名は矩方、通称は虎之助、大次郎、松次郎、寅次郎と度々改めた。号は松陰又は二十一回孟士として知られている。

数え年五歳の時藩の山鹿流兵学者であった叔父吉田大助の養子となり、翌年叔父が死んだので家督を相続した。それよりのち家学大成のため勉学にはげんだ。

二十一才、平戸、長崎に遊学、西欧文化の一端にふれ、大いに啓発される。

翌年、藩主の江戸出府に随行、当時随一の西洋学者佐久間象山の塾に学ぶ。阿片戦争の詳細を知り、西欧の東洋侵略、日本に及ぶの恐怖を痛感する。

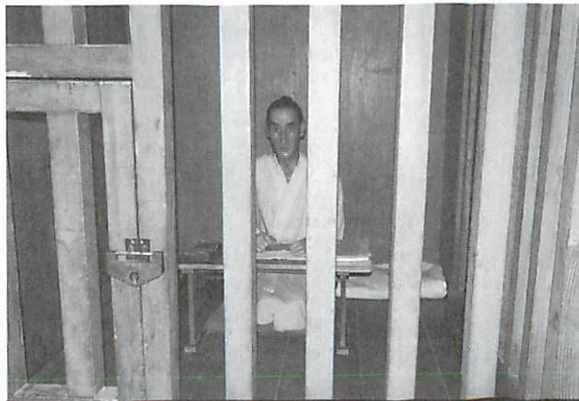
同年、無断にて東北地方を遊歴し、脱藩の罪にて、土籍、世禄を剥奪・閉居を命ぜられる。藩公から特に十年の遊学を許されて、江戸に行き、再び、佐久間象山に学ぶ。国を救う為には、西欧の事情を知るにしかずと国法を冒して決死の密航を企てたが失敗、自首萩の野山獄になされる。

そこで松陰は世にも不思議な囚人教育が始まった。門下生各自の可能性を引き出す独特の教育であった。彼の思想の根底にあるものは、外夷に対する祖国愛であり、貧しい日本を、おかれている日本を強くしなければならぬという富国強兵策であり、時勢への開眼であった。

松陰は世界の大勢をとき、日本の行く可き道を教えようとした。学問が現実と遊離しては存在しないし、あつてはならないといた。

この教育がその子弟を奮いおこさせた。日本の改造・革新へ——明治維新へと突き進む。

学問から実践へ、その政治活動は安政の大獄への連座となり、江戸送り、小塚原で斬られた。行年僅か数えの三十才。明治の日本をつくった偉人の多くは吉田松陰の門下生、高杉晋作・久坂玄瑞・吉田稔麿・前原一誠・伊藤博文・山県有朋・野村靖等有名である。



死罪の判決を受けた松陰は獄中で有名な「留魂録」を執筆、遺書とした



松陰、尊皇倒幕を企て、安政の大獄で江戸送り杉家での最後の別れの宴



松陰・松下村塾を開設、その至誠みなぎる囚人教育は多くの子弟の感動を呼ぶ